

令和4年 5月17日

2021年度授業アンケートの評価について

新型コロナウイルスの世界的流行により、本年度の授業の実施形態は、昨年度に引き続き、同時配信、オンデマンド、一部対面、あるいはそれらを組み合わせたハイフレックスなど、多岐にわたったものとなった。

本学院では、本年度から授業アンケートをWEB入力化し、学生は、ELMS上で自分の履修した科目を回答することができるようになり、また、授業直後に回答できない場合には後日回答することが可能となった。

アンケート実施の結果、1学期に関しては調査対象とした44科目中43科目(97.7%)、2学期に関しては44科目中40科目(90.9%)から回答が得られており、全体的に実施率の着実な向上が認められた。一方、科目ごとの回答率が1学期53.2%、2学期が38.0%と、例年より大きく低下したことには留意したい。(前回回答率1学期77.0%、2学期52.6%)授業アンケートの回答率については、全学的にもWEB入力化したものは著しく低下する傾向があり、今後は科目ごとの回答率を上げるための工夫が必要である。

本アンケート評価内容については、昨年度1学期は本アンケートを実施することが困難であったため中止、2学期も実施は任意としたため、過年度との数値の比較等は行わず、報告として本アンケート結果を公表する。

シラバスに関連する設問1~3すべてにおいて、「強くそう思う」、「そう思う」との回答は90%以上に達していた。また、設問5~10における教員の説明、話し方、学生との双方向コミュニケーションなどに関する設問においても、9割近くの学生から肯定的な回答(「強くそう思う」、「そう思う」)が得られている。これらのことから、コロナ禍で授業形態が大きく変化する中においても、概ね例年と遜色のない授業を提供できたことが推察される。「授業への出席率(設問11)」に関しては95%以上出席したと回答していることから、オンラインでの受講環境が学生の修学にプラスに働いた可能性が考えられる。「授業が満足できるものであったか(設問15)」との問いに対して「強くそう思う」、「そう思う」と回答した学生の割合は93.5%に達していた。また、「授業による知的刺激、さらなる勉学意欲(設問14)」等も肯定的な回答が89.1%を占めていた。以上から、未曾有の状況下で難しい授業運営を求められる1年であったものの、少なくとも例年と同程度の質を保った教育が提供できていたと考えられる。2021年度に得られた様々な経験を活かすことで、いまだ新型コロナウイルスの終息が見通せない中でも本学院での教育が学生にとって有意義なものとなるよう努めていく所存である。

北海道大学大学院環境科学院

学院長・教務委員会委員長・教授 谷本 陽一